

No. 989

# あと 800 日

—沖繩海洋博—

輝く太陽のもと、美しさを誇ってきた母なる海。  
海は、すべての生命の発生のふるさとであり、わたしたちは人類をはぐくむ母であった。  
人々は、豊かな資源の恵みの中で生きてきた。しかし、地球の三分の二をおおう海も、産業の発展に伴い、しだいに汚染され、病める海にかわろうとしている。  
この危機も脱し、清らかで豊かな海を再現しようと、海の望ましい未来を求めて、1975年に沖繩で、国際海洋博覧会が開かれることになった。  
開会まであと 800 日と迫った十二月二十二日、東京銀座で、沖繩の砂糖きび、3000本プレゼントのキャンペーンが行われた。サンゴ礁に輝く海との対話を感動的に演出する沖繩海洋博の開会がまたれる。

## 第2次田中内閣発足

22日召集された第71特別国会。  
数々の話題をまきおこした過日の総選挙、25歳で当選した上田議員はカメラのフラッシュを浴びて初登院。参議院からくらがえした石原氏はやや興奮の面持ち。  
大躍進をとげた共産党は野坂議長を先頭に「団体」で登院。  
午後1時すぎから開かれた衆院本会議で田中首相が新首班に選ばれた。  
当初の予定では23日夕方までに終えたいといわれていた組閣、だが田中首相は国会の首班指名も党内各派との調整工作も予想外に順調に進んだことから22日に組閣完了を決意、第2次田中内閣は異例のスピード発足となった。  
新内閣は共産党の伸びで「保守の危機」に対応するためから「挙党体制」をうたい、福田氏を入閣させた。  
三木、大平、中曽根氏は再任され、あくまで「五大派閥」を中心に党内安定をはかりつつ、愛知、桜内、江崎氏など閣僚経験豊富なベテランを配した。  
保守本流体制の第2次田中内閣、内外ともに数々の問題が山積するなかで、73年をどう乗り越えてゆくだろうか。